



しにかわ 報 広

人口の動き	
— 3月1日現在 —	
男	5.890 (-15)
女	6.077 (+2)
計	11.967 (-13)
世帯数	2,598 (-3)
()内は前月との比較	

発行/川西町役場 編集/企画室 定価/1部5円 印刷/白南風社



学習のあいし

きょうのテーマは、老人からしあわせに暮らしてもらうには。

映画を見たあと、リーダーの一声でグループに分かれ、さっさと世話役が決まり、話し合い学習にはいった。

キと要点がまとめられていく。

きょうの発表はどこのかあるちゃんかしら、みんなの表情も真剣そのもの、鉛筆を持つ手がいそがしく動く。

制限時間は30分、終わると全体討議が待っている。
2月24日

上野婦人学級で

ものなれた司会で次つぎと意見がとびだし、テキパ

- 三月行事
- 十日、田月 十一日、赤谷 十二日、中仙田 十三日、野口でそれぞれ映画教室をひらく。
 - 十三・十四日 議会土庫委員会
 - 十四日 上野若葉会学習発表会
 - 十五日 管内中学校卒業式

- 十六日 家庭の日
- 十七日 議会庶務委員会
- 十八・十九日 議会総文委員会
- 二十日 農業委員会
- 二十一日 春分の日
- 二十二日 川西幼稚園卒園式
- 二十五日 管内小学校卒業式
- 二十六日 千手保育園お別れ会
- 二十七・二十八日 第三回町議会定例会を再開

注目されていた議員定数問題は、二月十四日の議会において四名減という結論が下された。当日は珍らしく傍聴人や新聞記者の姿も見えて、この問題に対する一般の関心が並々でないことを示していた。議員定数をへらすということ自体画期的であるがこれを議決するに記名投票を用いたり、特別委員会の報告に委員個々の意見を明示する等典例の措置がとられたことも印象的であった。しかも、つくすべき論議をつくしたという感じで、採決のあとには賛否いずれの側も肩の荷をゆるしたように見受けられた。

二月二十七日仙田出張所に招集された仙田地区開発促進委員会は、県単山田振興計画を審議決定した。この委員会は発足してからおよそ一年がかりでまとめられたもので、昭和四十四年から四十七年までの四年間に

総額六億三千三百万の事業費を投じて地区の開発を行なうというものである。この中には田戸を中心とする地すべり対策の四億円が含まれているが、重点施策として町道、農道の整備をはじめ、ニシキゴイの越冬用施設等産業の経営近代化施設、生活環境施設、観光、消防その他約百四十件にわたる開発事業が仙田地区全域にわたって計画されている。

新年度予算の原案が、きょう招集の定例会に提案される。一般、特別あわせて五つの会計の総額は五億に近い額であるが本命の一般会計は、三億一千二百一十四万四千円で前年度当初に比べて一四・九%の増である。人件費を含む経常費の自然増は予想どおりであるが、事業費のほうも順調にのびている。総合計画第一年度であり、仙田地区県単山田振興計画の初年度でもある新年度予算には、これらの事業が優先的に計上されているが特に道路整備や雪害対策を含む土木費が大幅にのびている。

議員数4人減らして22人に

本年の一般選挙から新定数で

二月十四日に招集された第二回町議会臨時会で、注目の議員定数問題がとりあげられ、特別委員会の約半年にわたる審議経過報告と質疑討論を行なったのち、記名投票によって川西町議会議員の定数を、現在の法定数より四人減らして、二十二人にすることが決まった。ほかに、この議会では新年度予算の編成時期を反映するかのように新規請願七件を審議し、いずれも継続審査としたが、計画的な町政推進の気運が浸透してか、例年のこの時期にくらべ、請願の件数はグッと減少した。

議員定数については、まず特別委員会における審議経過が、小川清次委員長代理によって報告された。

報告内容の概略は別項のとおりであるが、各委員の意見をまとめてみると、現行の法定数維持に賛成が四人、定数削減をすべきだという委員が二人となった。

しかし、特別委員会としては、このような意見の比率はあってもそれをひとつの結論にまでもとめあげるのは、話し合いが平行線をたどったため、審議経過のありのままの姿を報告するのにとどめて最終的には、議会において決定する以外に方法はないとの意向を表明した。

なお、特別委員会の構成は七人であったが、平野委員長が終始欠席したので、小川副委員長がこれを代理し、実質的には六人で審議を行なったものである。

この委員会の報告に対する質疑

定数減の賛否は

十六対六

議長を除く二十二議員(欠員二席)による投票の結果は、削減に賛成十六票、反対六票で、まず定数を減らすことが決まった。

ひきつづき、何人に削減するかを決定することに上がったがやはり記名投票を行なったその結果は次のとおりである。

- ・二十二人を可とするもの 十二票
- ・二十四人を可とするもの 九票
- ・二十人を可とするもの 一票

以上のようにして結論を得た議員定数問題も、あらためてきょう十日の三月定例会で定数条例が成立して一段落となる



定数減を決めた第2回臨時会(立っているのが投票結果を朗読する和久井議長)

そして、議員定数は、一般選挙の場合でなければ変更しないのが原則であるので、ことし八月の改選が新定数のスタートになる。

継続審査と

なつた請願

第二回町議会臨時会で、継続審査と決定した請願は、次の七件である。

- 赤谷地内林道月沢線開閉に関する請願
- 明せん平(窪島)農道新設に関する請願
- 岩瀬原線農道簡易舗装工事助成に関する請願
- 沢峠(野口)地内の開田に関する請願
- 仁田たばこ耕作者の共同育苗経費助成に関する請願
- 越ヶ沢地内わらびの・きわたくは線農道新設に関する請願
- 窪島したれ坂農道簡易舗装に関する請願

特別委の審議経過

小川委員長代理の報告(概要)

本特別委員会は、昨年九月の第五回定例会で設置が決まり、十月十二日、第一回委員会を招集して実質的なスタートをした。設置が決してから、足かけ半年におよぶ審議のあらましましは次のとおりである。

第一回委員会

十月十二日 特別委員会を設置したことが、ただちに定数減を指向するものではないことを確認し、当面、県下の実態を、視察、あるいは事務局で作成する資料によってくまなく調査することを申し合わせた。

第二回委員会

十一月十一日 事務局が用意したところの、すでに定数減にふみきっている町村の調査書を検討したのち、この日午後から津南町を視察した。調査書によると、県下九十五町村のうち、定数減を断行したのは二十二町村で、人口の減少・少数精鋭・経費削減というのが、その理由、もしくは目的になっている。かりに当町も定数減を行なうとすれば、人口減少が名目であろうという委員間の空気があった。

津南町の場合、三十人の定員で二十一人となるのを、一挙に二

人削減する意向をとりまとめる作業にはいったが、欠席二人をのぞいて、五人の委員の意向を分析すると次のようになった。

- ・現状維持 二人
- ・現状維持が望ましいが、削減 一人
- ・削減 一人

十二人にまで減らしている。

定数減は、住民の意思を町政に反映させる場の縮小になり、地方自治の本旨にそむくのではないかといい、津南町では川西に倍する部落があり、人口も多いためにかかわらず、議員による弊害はみられない。かえって議会活動の活性化という好結果があらわれているとこのことであった。

この日は、分水町(西蒲)と栄村(南蒲)を視察した。いずれも当町と同程度の規模の町村である分水町では、四十二年に議会において記名投票の結果、定数減に賛成十一票、反対十四票で、二十六人の現員を維持しているが、賛否の理由は、いずれも予想と大同小異の域を出ない。また、この問題の審議過程を聴取して、運用上得るところが多かった。

第三回委員会

十一月二十六日 また、栄村の状況は、現在、大工場進出のきざしがあり、人口も増加しているのち、世論はもとより、議会においても問題になっていないようである。

第四回委員会

一月十三日 各委員の意見をとりまとめる作業にはいったが、欠席二人をのぞいて、五人の委員の意向を分析すると次のようになった。

- ・現状維持 二人
- ・現状維持が望ましいが、削減 一人
- ・削減 一人

るにしても最低で 一人

二十二人程度に削減 二人

第五回委員会

第一回の委員会以来欠席していた平野委員をのぞき、各委員の意見を最終的にまとめたところ、現状維持賛成が四人、定数減に賛成二人という様子になり、おのおの理由は次のように大別できた。

●現状維持賛成

1. 法定数である。
2. 定数減は、住民の意思反映を希冀にする。
3. 当面、重要課題が多く衆知をもって町政にあたる必要があり、定数減は得策ではない。
4. 少しづつ減らしても経費の削減につながらない。

●定数減に賛成

1. 人口の減少が著しく、二十二人は多すぎる。
2. 津南と中里はすでに減らしているが、支障はみられない。
3. 経費の削減になる。
4. 少数によって、むしろ活発な議会活動が期待できる。
5. 部落数が多いから議員も多いうほうがよいという考えは的を射ていない。

以上であるが、これらの論議をにため、採決という方法によって左右を決するにすれば、意見が平行線をたどったままで、ついに現状維持か否か、委員会の統一見解を出すことはできなかった。

- 三十一日 郡議定会定例会
- 二十四日 産業経済委員会
- 二十五日 故郷口辰治氏(仙田農協組合長)の告別式に議長参列

そのほかの

議会の動き (2月)

- 六日 総務文書委員会
- 九・十日 町長、議長とも東京仙田会五十周年記念会出席で上京

千手簡易水道建設

二カ年計画でことし着手 総工事費七千百万円

当面の重要課題のひとつ、千手地区簡易水道建設事業の青写真がほぼできあがり、千手地区簡易水道建設の町移管と、これに伴う被害者補償対策の交渉が先決となっていることの問題も、交渉が一段落して、建設の歩みをさらに進めたわけだ。

もともと、現在の国鉄補償水道の老朽化と水質不良をいとかちにした建設計画は、同時に町全体の水道普及を図るパイロットの役を果たすものとして、注目されていますが、二月末で事務当局がまとめた建設のアウトラインは次のとおりで、工事の着手が八月ごろ、年末には一部の給水を開始し、完工は明年暮れを予定しています。

地区のみならずには、決定したい、説明会などを通じて理解を深めていただくとともに、工事の万全と事業の円滑な運営を期するため、いまから、全戸の加入を目標に、ご協力をお願いするものです。

給水計画

給水区域は、千手地区(坪山・平見・霧条・鶴吉を除きます)と稲葉の一部で、約七百六十戸、三千五百人を対象とし、給水量として、一人一日最大百五十リットルを見込んでいます。

工事予定の概要

● 水源
羽黒山のふもとに一本、ほかに一本、計二本の深井戸から、一日千立方メートルの揚水が可能であり、これを十馬力の水中ポンプ、百二十五ミリの送水管によって二メートル高い配水池まで送る。

- 浄水
除鉄、および滅菌をする。
- 配水池
二百立方メートル(一日給水量の八時間分に消火水量の二十四立方メートルをプラス)
- 配水管
直径百五十〜七十五ミリの石綿セメントパイプ、五十〜二十五ミリのビニールパイプを使う。
- 消火栓ほか
消火栓十八基(地上式)を装置

● 工事費
本工事費五千二百七十万円、流

末工事費千二百二十万円に事務費等の七百四十七万円を加えて、総工事費は七千三百三十七万円になり、この財源内訳として、国庫補助千六百六十六万六千円、起債二千六百万円、一般会計からの繰り入れ千二百七十四万四千円、分相金(個人分)九百八十万円、負担金(流末分)千二百二十万円を予定している

個人負担は
平均三万円
このうち、個人負担分については、一月あたり本工事の分担金が一万四千円、給水工事分(流末工事)の負担が平均一万六千円程度になる見込みなので、約三万円と計算しています。

なお、水道料金は、これも予定の額を出ないが、一か月の基準料

金(十立方メートルまで)三百円、十立方メートル以上一立方あたりについて三十円を加算する考えであり、この計算でゆくと、一か月の消費水量から考えて、各家庭で四百五十円から六百円程度の額が予想されます。



「声かけ運動」
新入学(園)児の
交通安全防止
四月一日から二十日までは、新入学児童・新入園児の交通安全防止強調期間です。

この時期にきまって多発することの交通安全事故を防止するため、安全教育の徹底、通学(園)時の安全確保、交通環境の点検整備をはかるというものです。

みなさんの家庭でも、交通安全のしつけを行ない、通学(園)路をこどもとともに一度歩いてみて実践に、正しい歩き方、横断のしかたなどを、みなさん自身の手でこどもの身につけさせ、その習慣化をはかってください。

また、こどもの路上あそびや危険な状態に対する「声かけ運動」をすすめてゆく計画ですから、ご協力をお願いいたします。

広報スケッチ

診察班の一行が仙田にはいって二月九日から十三日まで五日間は、その前後も含めて、季節に似ず暖気のよい日で明け暮れ、訪問診察をはじめ、活動には好都合でした。反面、リこれがあたりまえの年々なのではなく、ま

ったか部落が孤立してしまつような、雷のむららす、きびしいへき地の表情を見ていたたくにはあいにこのことでした。各家庭を訪問するたびに方言にまどわされる先生。広いけれど採光がふじゅうぶんな暗いへきにとまとい、いろりの煙にむせる学生たち。

慶大医学部のへき地診療班
あてられたのですが、食事はへき地の生活について、基礎からメスを入れてゆこうという方針に基づいて、部落の平素の献立ですませていました。そのようにして実施した調査結果の中から、目ぼしいものを擇借してみましよう。

①ストーブを使つても、天井が高く熱がこもらないというように、家の構えが大きいのは暖房に不便、②採光がふじゅうぶん、③食事は塩分が強すぎて、④成人病(高血圧症)が多い、⑤野菜の成分が貯蔵中に抜けてしまふのではないか。

(アフターケア)
新潟県後援保護指導所
心臓と呼吸器に障害のあるかたを收容し、医学管理のもとに、更生に必要な生活指導や職業訓練を行なう施設で、柏崎市にあります。入所時期は毎年四月と十月、入所期間は一か年です。

嘱託員さま
.....
③

△仙田地区▽
○小脇、青木定太郎 ○高倉、高橋弥太郎 ○大白倉、中村源
○小白倉、江口重一
△異動▽
○榎深、丸山久一郎(前任、丸山忠司)

し尿処理業務を開始

—石あたり二百四十円—

ここ数年、し尿処理についてみなさんが清掃車を利用する率は高まる一方で、業者だけでは、完全処理ができない状態にあります。そのため、こんど町にも清掃車を備えて、増加する要望に応じてゆくことになりました。

すでに、つぎの要領で仕事を開始しておりますから、ごみや、利用していただき。

● 申し込み
① 衛生係あて電話(二一〇番)で申し込み、または役場の窓口で直接申し出ていただく。

② この仕事に従事していただく次のかたがたの所へ申し込まれてもさしつかえありません。

・ 根津精一郎(上野、金堂やさん、有線二〇〇一)
・ 星名多一(上野、多右衛門さ

町税

納期が一部
変更になりました。

町税の納期限を一部変更することになりました。下の表が、変更状況を含めた新しい納期限をしめすものですが、4月以降の昭和44年度分から適用になりますので、まちがいのないように、納期内納入にご協力ねがいます。

納期月一覽表

税目	住民税(個人分)		自動車税	固定資産税
	一般分	特別徴収分		
4月			●	
5月				●
6月	●	●		
7月		●	●	
8月	●	●		
9月		●		●
10月	●	●		
11月		●		●
12月	●	●		●
1月	●	●		●
2月		●		●
3月		●		
4月	●	●		
5月		●		

- 変更なし
- 新設された納期月
- ⊗ 廃止された納期月

(説明)

※住民税の一般分について、1月の納期を12月に繰り上げ、特別徴収分について、これまで10か月納期であったのを、2か月増して12か月納期に改めた。

※固定資産税について12月(3期分)を9月に、2月(4期分)を11月に、それぞれ繰り上げた。

土野 富井 貞生
路むほどの雪をさす二月屋く
雛飾る二つ塗りの姉妹
楚々と二女の母たり雛祭
在和歌山 金子 洋石
春菜し菊除け花に少し風
病める子の見ゆるとこに雛飾
発籠所通り 小川 越人
屋根に窓に布田干したる冬日和
夜となりて徹まじりに春時雨
細まりし雪の白重の春を待つ
春と呼ぶ音も響き響き
運者近縁
にぎやかな監獄にこもりけり
煤捨てしころ大ましく消ゆる

赤十字の社費納入

(目赤川西町分)

赤十字は、みなさんの納める社費によって運営され、社員たるみな

栄養士の公募

川西町教育委員会

川西町教育委員会で栄養士を募集いたします。

有資格者(栄養士免許状の取得者)で採用を希望するかたは、きたる十五日(午前十時)までに校場内、教育委員会事務局へおいでになってください。

採用の時期は四月です。

三税の期限内 適正申告

所得税、個人事業税、および個人住民税の申告期限は、いずれも十五日までです。お忘れなく、期限内に申告してください。

所得税の確定申告書を提出した

かたは、個人事業税、個人住民税の申告をする必要はありません。個人住民税の申告書を提出し、かつ個人事業税の申告書を提出する必要のあるかたが、十五日までに申告されないこと、各種の控除、たとえば事業用資産の譲渡、損失の控除などが認められない場合が

ありますから、きり期限内に、正しい申告書を財務事務所へ提出をお願いします。(十日町財務事務所)

戸籍の窓から

- たかさこーご円満に
- 新郎 堀木 仁作 元町
 - 新婦 水落登都子 仁田から
 - 新郎 南雲 幹夫 中仙田
 - 新婦 丹野 昌子 神奈川から
 - 新郎 平野 勇 東善寺
 - 新婦 高橋 清美 高倉から
 - 新郎 上村 幸一 下平新田
 - 新婦 清水 和子 上野から
 - 新郎 中條 勝幸 岩瀬
 - 新婦 小田切善恵 長野県から
 - 新郎 関口 昭夫 上野
 - 新婦 馬 悦子 栃尾市から
 - 新郎 小川 敏文 赤谷
 - 新婦 長谷川節子 神奈川から
 - 新郎 星名 正 長男 沖立
 - 新婦 富澤 智行 由志三長男 山野田
 - 新郎 五十嵐 義典 義忠 長男 野口
 - 新婦 今藤 琢也 清 長男 平見
 - 新郎 水島 諭 真治 二男 三領

昇天しごめい福を祈る

- 高橋 雅美 義之助二男 神社町
- 青木祐美子 皎 長女 田戸
- 高橋 理香 一男 長女 東善寺
- 小林 昭夫 貞雄 二男 野
- 春日 立子 甚二 二女 仁田
- 南雲 和美 直秀 二女 中仙田
- 北村 哲郎 扶巳雄長男 山野田
- 丸山 重雄 重一 長男 原庄
- 渡貫 清美 榮 長男 新田
- 渡貫 一成 時夫 長男 発電所通
- 小海 源蔵 山野田 八六
- 渡貫 清美 新田
- 登坂 武榮 赤谷
- 和久井金蔵 木落
- 樋口 辰治 中仙田
- 高橋 忠蔵 高倉
- 渡貫 九一 新田
- 五十川久米治 沖立
- 羽鳥 長吉 仁田 八二
- 平野 源蔵 山野田 八六

小わにレ 俳壇

太田白南風選